安曇野ちひろ美術館 美術館だより

No.82

2015.4.27



生涯を通じて「子ども」をテーマに描き続けたいわさきちひろ。ちひろの死後、40年経った現在も、世界では戦争や紛争、テロなどが絶えず起こり、多くの子どもたちが戦火や貧困にさらされています。ちひろ美術館は、「世界中のこどもみんなに平和としあわせを」と願ったちひろの思いを受け継ぎ、文化

の発展に寄与する活動を続けてきました。

第二次世界大戦終戦から70年を迎える今年、安曇野ちひろ美術館では、「平和」をテーマにした3つの展覧会を開催します。 展示を通して、ちひろや日本の絵本画家、世界の絵本画家たちが作品に込めた、平和へのメッセージをご覧ください。

I ちひろ・非戦の誓い

●展示室1・2

若い時代に経験した戦争体験が、「私の生き方を大きく方向づけている」と語ったちひろ。本展では、戦争をテーマにした絵本やいきいきとした子どもたちの姿を描いた作品を展示し、ちひろの平和への思いを掘り下げます。

「原爆」を描いた絵本

1945年8月6日、アメリカにより、広島に投下された原子爆弾は、凄まじい爆風や熱線を巻き起こし、16万人にのぼる人々の命を奪いました。爆風によって放出された放射能は、今も、被爆した人々を苦しめ続けています。

1967年、ちひろは、被爆した子どもたちの手記を絵本にした『わたしがちいさかったときに』を手がけました。自らの表現について、「戦争の悲惨さというのは子どもたちの手記を読めば十分すぎるほどわかります。わたしの役割は、どんなにかわいい子どもたちがその場におかれていたかを伝えること」と語ったちひろ。表紙(図3)には、凛としたまなざしで前を見据える少女が描かれています。また、ちひろの作品と合わせて、同じ

く原爆をテーマに描いた2冊の絵本も紹介します。臨場感あふれる描写で原爆の現実と被爆者の苦しみを伝えた『ひろしまのピカ』(丸木俊・作)、美しい色彩と静謐な余韻のなかに被爆者の存在と心情を表現した『まちんと』(司修・画)。画家それぞれに表現は異なりますが、同じ平和への願いが映し出されています。

非戦の誓い

1973年、ちひろはベトナム戦争を題材とした絵本『戦火のなかの子どもたち』の制作を始めました。当時、ベトナム戦争は末期へと向かい、北ベトナムへの爆撃が激しく行われていました。「戦場にいかなくても戦火のなかでこどもたちがどうしているのか、どうなってしまうのかよくわかるのです」と語り、自らの戦争体験を重ねて、ベトナムの戦時下に生きる子どもたちの姿と傷ついた心を描き出しました。「焼け跡の姉弟」(図2)では、黒い画面のなかに、弟を背負い裸足で歩く少女の姿が描かれています。二人を囲む擦れた筆跡と重厚な黒は、焼け野原となった景色や爆撃後に立ち上る熱と

ともに、親を探す幼い二人が抱いている 恐怖や絶望が表現されています。病を押 して、人生の最後に完成させたこの絵本 には、ちひろが生涯を通じて願い続けた 「世界中のこどもみんなに 平和としあ わせを」という思いが込められています。

命の輝き

ちひろの晩年の作品「母の日」(図1)には、小さな手にカーネーションを持った子どもと母親の後ろ姿が描かれています。子どもをやさしく抱きしめる母親の背中からは、ちひろが子育てを経て実感した母としての愛情と、子どもたちが放っ命の輝きを慈しむ心が感じられます。

「今の世の中、いろんなものが失われていっているでしょう。とても素朴なんだけれどたいせつなもの、それが絵本の中にはあるんです。それを何とか表現していってお母さまたちに見てもらうのが、わたしの生きがい」と語ったちひろのことばは、40年の時を経た今の世にも通じています。平和への切なる想いを表現した作品の数々をご覧ください。

(宍倉恵美子)

Ⅱ 戦争を描いた日本の絵本展

●展示室4

戦後70年、日本の絵本はその間どのよ うに戦争を描いてきたのでしょうか。終 戦直後、二度と戦争を繰り返さない、と いう反省から、子どもの本に携わる人々 は新たな本づくりを始めました。しかし、 物資の乏しさや、アメリカ占領軍GHQに よる4年間の出版物検閲などから、戦争 をテーマにした絵本は1950年の丸木俊・ 位里による小冊子『ピカドン』や、1967 年のいわさきちひろが絵を描いた『わた しがちいさかったときに』を経て、1970 年代まで待たねばなりませんでした。 1990年以降、戦争に関する多様な絵本が 増えている背景には湾岸戦争などの世界 の動きや、戦後50年という節目とは無縁 ではないでしょう。本展では、1990年以 後に出版された日本の絵本のなかから、 内容や表現の異なる12冊を展示します。

戦争・平和という概念をあつかった絵本

『土のふえ』(今西祐行・文、沢田としき・絵/図1)は、戦いを始めた北と南の国の兵士たちの和解までの物語です。

味方も敵も同じ人間であり、人の営みと は無関係な自然が美しい色彩で描かれ、 平和のあたたかさを伝えています。

『ぼくのこえがきこえますか』(田島征 三・作/図2)には、戦争で死んだ多数 の者の無念さ、悲しみ、怒りなどが激しい筆のストロークで表現されています。 抽象的な絵が、感情という見えないもの への想像力をかきたてます。

『へいわってすてきだね』(安里有生・詩, 長谷川義史・画/図3)は、沖縄の小学生の詩に画家が絵を描いた絵本で、ストレートな言葉とシンプルな絵が心に響きます。当たり前だけれど大切なものが、平和なのだということが実感できる1冊です。

具体的な戦争を題材に描いた絵本

『ひでちゃんとよばないで』(おぼまこと・作/図4)は、作者の戦時中の台湾での体験をもとにした絵本です。主人公と仲の良かったひでちゃんは、敗戦を機に父の台湾人の名前を名乗り、よそよそしくなります。勝者と敗者の事情が子ど

もの世界にも及んでいることがわかります。日本がアジアの国々を侵略し、統治していた事実を異なる切り口で描くのが『くつがいく』(和歌山静子・作/図5)。兵士の靴という視点から、日本が近隣の国の人々を「ふみにじりいためつけ」、そして加害者自身もボロボロになったことが、抑えられた色と繰り返しのある文章で伝えられています。

戦争は、まだ世界の各地で続いています。『平和の種をまく ボスニアの少女エミナ』(大塚敦子・写真・文/図6)は、1992年のボスニア戦争を乗り越えてともに生きる人々のようすを、ひとりの少女とその家族や仲間を取材・撮影した写真で語る絵本です。

戦争というテーマには異なる立場が複雑に混在し、絵本作者の視点や想いもひとつではありません。それを受け取る私たちには、戦争について知り、考えることの大切さとともに、いかに行動していくかが問われています。 (松方路子)



図1 母の日 1972年



貝と赤い帽子の少年 1970年



焼け跡の姉弟 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年 図2



見つめる少女 『わたしがちいさかったときに』 (童心社)より 1967年 図3



チューリップとあかちゃん 1971年

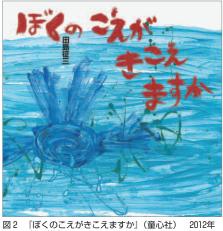
●展示室4



図1 『土のふえ』(岩崎書店) 1998年(印刷物)



『ぼくのこえがきこえますか』(童心社) (印刷物)



ボスニアの少女エミナ 写真文大塚敦子



図 4 『ひでちゃんとよばないで』(小峰書店) 2003年(印刷物)



図 6 『平和の種をまく ボスニアの少女エミナ』 (岩崎書店) 2006年(印刷物)



『へいわってすてきだね』(ブロンズ新社) 2014年(印刷物) 図3



図5 『くつがいく』(童心社) 2013年 (印刷物)

ちひろ美術館では、日本や欧米のほか、 アジアやアフリカ、中南米まで、世界各国 の絵本画家の作品を収集しています。異な る文化や風習を背景に持つ画家たちですが、 子どもたちに思いを寄せ、そのしあわせと 平和を願う共通の思いを胸に、絵を描いて います。本展では、彼らの作品をことばと ともに紹介します。



アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ (クロアチア) 『いつか空のうえで』より 2001年

フセイノヴィッチが絵も文も手がけた『いつか空のうえで』は、母を亡くし心を閉ざした少女が、空や雲をみつめ、動物たちを思い浮かべる物語。この作品には、10歳のときに両親を事故で亡くした画家自身の悲しみと、母親への愛が満ちています。一方で、90年代初頭のクロアチア紛争を経験した画家は、友人や隣人同士だった人々が命を奪い合う現実が信じられず、また家

を失った多くの子どもたちを目の当たりに したことは大変つらいことだったと当時を 振り返っています。彼女は、自らの最大の 願いを、「世界中の子どもたちが、しあわせ で温かい子ども時代を送ること」と語って います。



フセイン・ジャマアーン(スーダン) 『マジェドと友だち』より 1998年

動物にもらった指輪にまつわる少年の物語『マジェドと友だち』は、スーダンに古くから伝わる物語。ジャマアーンは、「子どもたちが豊かな色を想像できるように」と白と黒のみで描きました。西洋の遠近法とは異なり、大切なものは大きく描く伝統的なアフリカ美術の要素を取り入れ、物語の世界を豊かに表わしました。スーダンでは今なお、内戦や紛争が続いています。作品の根底には、困難な状況にあるアフリカの子どもたちに、「ジャングルと砂漠をつ

なぐ独自の伝統を受け継いだスーダンの町 や自然に根ざした子どもの本をつくりた い」という深い思いがあります。



クラウディア・レニャッツィ(アルゼンチン) 『わたしの家』より 2001年

かつて軍事クーデターが頻発し、政治情勢が不安定だったアルゼンチンで、少女時代を過ごしたレニャッツィ。髪型や服装までもが軍部の取り締まりの対象となる厳しい圧政下、心に深い傷を負った彼女を支えたのは、絵を描き空想に浸る時間でした。

『わたしの家』は、小さな家が世界各地を旅する物語。パスタや草花、昆虫の羽など、身近な素材を使い緻密にコラージュされた画面は、見る度に楽しい発見の尽きない作品です。画家は、「家は心を象徴しており、どこへでも行くことができ、誰にも制限できない」と語り、作品を通して、自由と平和の大切さを訴えています。 (長井瑶子)

●活動報告

2015年4月18日 (土)

建築家・内藤廣が語るちひろ美術館

ちひろ美術館を設計した建築家・内藤廣が、美術館建築や安曇野の地について、2016年夏オープンの「トットちゃんの広場」に込める思いなどを語りました。模型や資料に囲まれた多目的ギャラリーには約70人の参加者が入り、質疑応答も活発に、熱気ある90分間となりました。その主要な部分をご紹介します。

居心地のよい空間づくり

「絵本は、いろんな解釈があるけれども、 美術とそうでないものとの境界にあるもの。 文字は、物語や文学、詩と呼べるだろうし、 挿絵は、絵画、アート。本全体のつくり上 げ方は、エディトリアルデザイン。全部の ことをつなぎ合わせると、いかにも美術館 らしい建物とは違うだろう。ちひろ美術館 は、図書館と美術館の間のようなものをつ くりたいと思った。」

「展示室は、展示室の機能を果たすよう にできるだけ箱にしよう、それ以外はでき るだけ外に広がっていこうという考え方を した。」

「天井は、小ぶりな屋根がつながっている形にしたかったので、普通の材木屋さんで手に入る長さの唐松を使っている。この

天井のひん曲がっているところは、デザインではなく、完全に構造的に合理的なもの。加えて、のほりばりが壁に突き刺さっているのは、建築的には、ありそうでない収まりで、コンクリート側に細かい造作をしている。住宅スケールながら、あらゆる知恵をつかってできていることを知ってほしい。

「建物を建てるときは、その関係者には、さまざまな強い思いがある。そのときのことばや主張を、そのまますべて受け止めるのは難しい。ことばの向こう側にあるものをしっかり捉えられていれば、後はいいのかなと思う。それを言わせている気持ちみたいなものが大事で、その思いを建築家が受け止められれば、設計はできると思う。」 安曇野の地

「安曇野館の建設予定地は、すごくきれいな棚田で、黄金色の稲穂があり、そこに水がとうとうと流れていて、白馬連山に雪があり、こんなところに建ててもいいのかと思うほど美しい場所だった。安曇野は、春夏秋冬それぞれに良い。おすすめは、何もない水田に水がはってある時期。晴れていると、鏡みたいに全部の景色が映りこん



で美しい。」

「新幹線が通らなくてよかった。ここは、 高速交通網体系から外れた数少ないところ で、日本の原風景が残っているところだ。」

「トットちゃんの広場」の計画

「トットちゃんの広場には、トモエ学園の面影を残したような小さな建物があって、手前に広場ができて、電車があって、公園のなかには、飯ごう炊さんができる場所があったり……ストーリーのなかにあるものをできるだけいれたいと考えている。そして、花畑を間において、ちひろ美術館がある。こんな大きな、のびのびとした、景色が見えて、山が見える公園は、全国どこにもない。トットちゃんのことを全然知らない人が来ても面白いだろうし、非常に豊かな場所がつくれると思う。」(田邊 絵里子)

ちひろを 訪ねる旅の

銀座・月光荘画材店

■月光荘画材店 東京都中央区銀座 8-7-2 TEL 03-3572-5605



創業当初の月光荘画材店



いわさきちひろ 1960年 (41歳)

鉛筆を左手に、大きなスケッチブックを持ったいわさきちひろ。 手にしているのは、青い表紙の月 光荘画材店のスケッチブックです。 ちひろの画机にいつも置かれていた、文字通り愛用の品でした。

月光荘画材店の創業者は、富山 出身の橋本兵蔵。上京し書生をし ていた兵蔵は、幸運にも与謝野鉄 幹、晶子の知遇を得て、夫妻のも とに集まる詩人の北原白秋や石川 啄木、高村光太郎や画家の藤島武 二、梅原龍三郎、有島生馬といっ た蒼蒼たる人たちと知り合います。 そこには、後に、ちひろが師事す る岡田三郎助もいました。自ら創 作はしないものの、何とか芸術家 の方々の役に立ちたいと、兵蔵が 思い立ったのが画材商。まだまだ 洋画家たちが満足できる国産の絵 の具がなかった当時、文化人たち に支えられ、1917(大正6)年に 新宿西口の角筈に店を出します。

新伯四日の用舌に店を出します。 「月光荘」は、与謝野夫妻による 命名。藤田嗣治がデザインした店 は大層モダンで、映画の撮影にも よく使われたとか。最初は輸入絵 の具の販売からはじめ、やがて、 研究に研究を重ねて独自の国産絵 の具を開発し、質の良さで画家た ちに喜ばれました。しかし、その 店も1945年の空襲で全焼。戦後、 銀座の泰明小学校前に、店を再開 したのは1948(昭和23)年です。

ちひろと月光荘の出会いが何時 頃かは定かでありませんが、14歳 で岡田三郎助の画塾に通う頃、岡田を通じて知っていたかもしれません。戦前に月光荘があった角筈は、ちひろが書の代稽古を勤めた文化服装学院の近く。戦後の銀座・月光荘は、ちひろが愛した洋装店ルネに程近いところでした。

月光荘を愛した画家は多く、スズキコージもそのひとり。目下、聖コージズキン展で飾られた画家愛用のイーゼルも月光荘製。お客は買ったものを自分で計算し、"月光荘おじさん" こと兵蔵に申告し、備え付けのザルに入金する仕組みだったと、思い出を語ります。月光荘が大切するのは、色彩の純粋な美しさと透明感。まさにちひろの世界と重なります。(竹迫祐子)

ひとこと ふたこと みこと

3月1日(日)

白馬方面から、車を走らせて来館 しました。途中、左手に電車にカ バーがかかっているのを見つけ、

「もしや、トットちゃんの電車では?!」と、楽しみに入館しました。来年、また、3月1日に来ます。本物のトットちゃんに会えるかしら?!

下の娘が、この4月、小学校に入学します。元気だけど早生まれの小さい娘。"なじめなかったらどうしよう""ついていけなかったらどうしよう"と考え込むたびに、昔読んだ『窓ぎわのトットちゃん』を思い出します。

(静岡県・伊豆より すずきあや)

3月3日(火)

ちひろさんの自然の見方は、俳句 をつくる時の心に通ずるものがあ

冬期休館を終え今年も開館。「ま

ると思いました。自然の一瞬の美しさをとらえ、花や木をモチーフに、あとは自由に想像する。俳句をつくられたら、さぞかしすばらしい句を残されたことでしょう!

3月12日 (木)

介護度のすすんだ祖母に絵本を読んで聞かせたことがありました。 穏やかな顔をして、じっと耳をすませて聞いてくれました。あのときの"ありがとう"は忘れられません。絵本って、いいですね。

3月21日(土)

9月に61才、3月に60才になる還暦カップルです。娘たちのプレゼントで初めて来館しました。ちひろさんを知ったのは、長女が保育園に入園した時です。「長男・猛」の心境、本当にその通りです。そして私達も親から無償の愛をたく

さん受け取っていたんですね。少 し涙が出ました。

3月22日(日)

6歳になった娘と一緒に来ました。 赤ちゃんの頃から何度か来ていますが、今回、自ら本を選び、本を 読む姿に成長を感じ、また本が好きな子に育ってくれた事を嬉しく 思います。次は、体が不自由になってしまった母を連れてきます。 本が大好きな母の元気につながればいいです。 (安曇野市 O)

* * *

『窓ぎわのトットちゃん』、読みだすととても目が離せません。心の中が、にこにこ、ほがらかになっていくのが気持ちよく、ぜひ子どもにも読んでもらいたい本です。 友人と今度また来たいです。

(43才初一人旅中 4人の母)



美術館 日記

DA M

3月1日(日)

るごとちひろ美術館」展がスタートした。展示室以外でも、建築の基本コンセプトのひとつである「絵はみなくてもいい」を体感できる館内各所のおすすめスポットを紹介。休館中に一新した印刷物も今日からお目見え。今年の入館証は2016年にもう一度入館できる招待券になっている。いよいよ来年夏に開園を控える安曇野ちひろ公園・トットちゃんの広場の完成を見届けに、ぜひ来年も多くの方に足を運んでいただきたい。

3月22日 (日) ☆

今年初の試みとなる近隣市町村入館無料デー。3月8日の松川村に続き、今日は安曇野市にお住まいのみなさんに向けた優待日。開館前から列をつくって待っていてく

ださり、館内は終日にぎわった。 「近くに住んでいるけれど実は初めて来たのよ」と声をかけてくださる方もあり、うれしい限り。

3月24日 (火) ☆/ 冷

美術館の駐車場にある石垣の間から元気に伸びるつくしを発見。早春のやわらかな日差しのなか今日は雪がちらつく安曇野。コートを脱ぐにはもう少しかかりそうだが、思いがけず見つけた春の気配に心がはずむ。

3月25日 (水) ○

昨年11月に発生した長野県神城断層地震。中学生ボランティアがサポートをして当館で開催する夏休み体験コーナーの参加費の一部を、義捐金として被災地へ届けるため、松川中学生4名とともに被害の大きかった白馬村と小谷村を訪問。被害状況や復興作業の予定などお

話を伺った。白馬村では、地震から20日余りで仮設住宅が建設されたこと、全国から多くの支援が届いたことなどを村長が直々にお話しくださり、中学生も熱心に耳を傾けていた。道中には潰れてしまった家やひび割れた道など被災地の現状も目の当たりにした。雪深い白馬村と小谷村では、雪解けを待ち、春から本格的な復興工事となるそう。義捐金が少しでも役立



白馬村長に義捐金を贈呈する松川中学生

●次回展示予定 2015年7月17日(金)~9月23日(水·祝)

〈展示室1・2・多目的ギャラリー〉

〈企画展〉-はじめてみる、ちひろの世界。-



いわさきちひろ×佐藤 卓=展

現代を代表するグラフィックデザイナー・佐藤卓がプロ デュースする展覧会。佐藤卓のデザインの仕事や、彼が選ん だちひろの絵を紹介するほか、「ちひろ×佐藤卓の実験室」で は、ふたりのコラボレーションから生まれた作品も展示しま

"机に向かう少年×ロッテキシリトールガム" 2014年

グラフィックデザイナー 1984年佐藤卓デザイン事務所 設立。「明治おいしい牛乳」な どの商品デザイン、美術館、 博物館のシンボルマークを手 掛けるほか、NHK Eテレ 「デザインあ」の総合指導な ど多岐にわたって活動。



〈展示室2〉ちひろの人生 〈展示室5〉絵本の歴史

〈展示室3・4〉ちひろ美術館コレクション(衣装あれこれ!?世界の絵本展)

独自のスタイルや模様で彩られた美しい民族衣装、着飾ったユーモラスな動物たち、奇抜な 衣装に身を包んだファンタジーの住人たち……。世界各国の文化や伝統が息づくさまざまな 衣装が描かれた作品を紹介します。

ユゼフ・ヴィルコン(ポーランド) グレタ・ガルボ 1989年 安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。

詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。 http://www.chihiro.jp/ TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774 f https://www.facebook.com/chihiro.azumino

●報道写真家・石川文洋 平和を語る -講演会とドキュ メンタリー映画「石川文洋を旅する」上映会 - 共催:松川村・9条の会

戦場カメラマンとして、ベトナム戦争の状況を写真 で伝えてきた石川文洋。石川氏がこれまで見てきた もの、これからのこと、平和への願いなどをお話し ます。

〇日 時:7月4日(土)15:00~18:00(15:00

~映画上映/17:00~講演会)

○参加費:500円 高校生以下無料(入館料別)

○定 員:100名(要申し込み)

●近隣市町村入館無料デー

●2016夏トットちゃんの広場オープン・プレイベント 2015年は、毎月『窓ぎわのトットちゃん』のエピソー ドにちなんだイベントを開催。イベント参加者限定 のスタンプラリーも行っています。

○電車の教室づくりワークショップ

地元・池田工業高校の生徒とともに、木工のワークショップをします。

昨年秋に移設された電車の見学もします。 日 時:5月23日(土)13:00~15:30

参加費:ひとり500円

場 所:安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

定 員:親子10組(要申し込み)

○松川村の畑の先生と農作業体験

農業が盛んな松川村の"畑の先生"に農作業を教えてもらいましょう。 秋の収穫を楽しみに、畑にいもの苗を植え付けます。

日 時:6月6日(土)13:30~15:30

参加費:ひとり500円

持ち物:農作業用手袋または軍手、帽子(汚れてもよい服装でご参加

ください)

集合場所:安曇野ちひろ美術館 定 員:親子10組(要申し込み)

●ちひろが愛した安曇野まつかわ・北アルプスパノラマウォーク

日ごろの感謝を込めて、美術館近くの市町村にお住まいの方々に向け

て、入館無料デーを設けました。今会期は、6月14日(日)松本市民

*当日は、ご住所を確認できるものをお持ちください。その他市町村の方は、HPに

入館無料デーです。みなさまのご来館をお待ちしています。

主催:松川村観光協会 協力:安曇野ちひろ美術館

ちひろが残したスケッチポイントや松川村内に点在する神秘的な遺跡 などを巡ります。松川村の地元ガイドによる案内や美術館スタッフに よる解説のほか、りんごジュースの試飲も。北アルプス連峰が水田に 映り込む絶景を望む8.5kmのウォーキングコースをお楽しみください。

○日 時:5月30日(土)8:30~12:00 ○参加費:ひとり1000円(保険料含む)

○定 員:100名(要申し込み・5/22メ切 松川村観光協会TEL.0261 -62-6930

●おはなしの会

て日程をご確認ください。

毎月第2・4土曜日 11:00~

参加自由、入館料のみ

●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日 参加自由、入館料のみ

14:00~ちひろ展

14:30~世界の絵本画家展または企画展

○トットちゃんのリトミック体操

トットちゃんも大好きだったリトミック。親子でふれあいながら、音 楽を全身で感じ、楽しく体を動かしましょう!

日 時:7月11日(土)*お子さまの年齢によって、参加回をお選びください。

①9:30~10:00 未就園児(2~3歳) ②10:30~11:00 幼稚園児(4~6歳)

③11:30~12:00 小学校低学年

講 師:井上美和子

(国立音楽大学音楽教育学科卒、リトミック音楽教育研究所所員)

参加費:ひとり500円

*動きやすい服装でお越しください 場 所:安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

定 員:各回親子10組(要申し込み)

CONTENTS 〈展示紹介〉〈戦後70年特別企画〉 I ちひろ・非戦の誓い / II 戦争を描いた日本の絵本展 / II ちひろ美術館コレク ション 世界の絵本画家から未来を生きる子どもたちへ…234

〈活動報告〉建築家・内藤廣が語るちひろ美術館…4

ちひろを訪ねる旅57/ひとことふたことみこと/美術館日記…5

美術館だより No.82 発行2015年4月27日

安曇野ちひろ美術館